

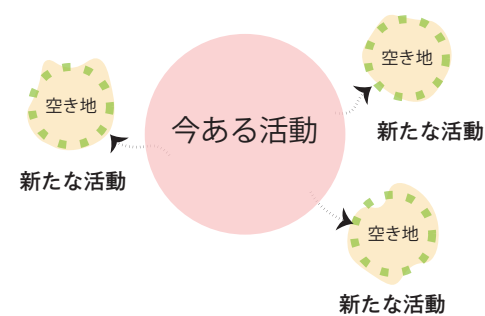
何かコトが起きる場所

まちなかには、上手に活用すれば人々の活動が生まれ、「何かコトが起きる場所」となる可能性を秘めた種地がたくさんあります。市有地・公共空間やすでに活動が生まれている場所の近くは、特に実践につながりやすい場所です。

避難指示解除後の激変に対処するために、空き地や空家を様々な活動ができる場所にしましょう。

また、活動を生み出す空間になりうる市有地・公共空間の例として、具体的に5か所を取り上げ、各々の場所がもつ可能性を示し、今後の活用の方針を考えます。

今ある活動を活かす



すでに小高には小高の人も小高の外から来る人も集う場があります。そのにぎわいは、周辺の空き地に新たな活動を生み出す可能性をもっています。

空き地を活用しよう

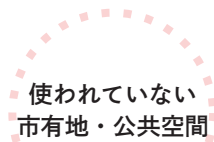
空き地だからといって、建物を建てなければ活用できないわけではありません。地域のニーズに応じて、日用品の販売や医療を提供する移動車両が停まったり、図書館や子供の遊び場などの機能を備えたコンテナとテラスを空き地に置いたり、機能を置くことで、空き地に賑わいが生まれます。



写真引用
http://www.tanacar.co.jp/tana_car.html
http://www.waiwai-saga.jp/about/part1/

▲空き地に移動販売車が停まると、人がたくさん集まってきます

市有地・公共空間を活かす



+ 話し合い
市有地・公共空間の使い方は、みんなで話し合って決めていきましょう。

活動を生み出す空間

みんなの「やりたい！」を実現する場所として、また、「やりたい！」という気持ちを生み出す場として市有地や公共空間を活用しましょう。

共同駐車場

駅前通り沿いには、複数の商店が一緒に使う形式の、共同駐車場が四箇所あります。

【共同駐車場の可能性】

- ・まちなかを車で訪れた人が、一番最初に降り立つ空間。
- ・まちなかの商店主が日常的に他商店と関わる場。

【活用の方針】

商店街の起点として、来訪者の回遊のきっかけとなるような空間・仕組みづくり。

駅前広場

「小高駅の再開も決まり、被災前も後も変わらず駅前には重要な場所の一つです。

【駅前広場の可能性】

- ・まちなか、小高の顔となる場。
- ・学生の通学路。
- ・商店街のはじまり。

【活用の方針】

老若男女誰でも気軽に集まれる、青空広場のような空間。



▲実際の活用例
2015年2月、住民主催のチョコフォンデュパーティーが開催されました。

妙見通り沿いの公園

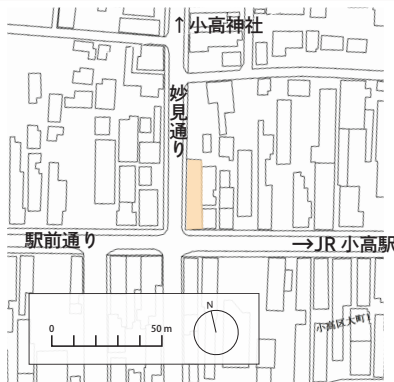
妙見通りと駅前通りの交差する四辻には、細長い敷地の公園があります。通りの入り口に、昔は石の鳥居がありました。

【妙見通り沿い公園の可能性】

- ・小高神社の参道への入り口となる場所。
- ・被災前、商工会による浮舟祭りなど通りではイベントが開催されていた。

【活用の方針】

普段はまちなかの人が気軽に顔をあわせ、話の出来る空間イベント・祭り際にはその舞台となる。



小高商業高等学校跡地

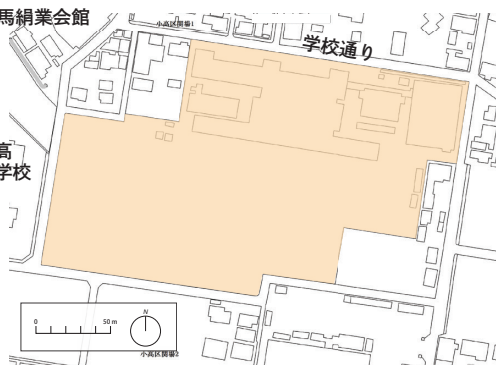
被災後、小高商業高校と小高工業高校の合併により、元の商業高校の場所は広大な跡地となります。

【小高商業高校跡地の可能性】

- ・学校通り沿いに位置し、周辺には幼稚園から小学校、中学校、工業高校まで教育施設が集積している。
- ・広大なまとまった土地。

【活用の方針】

多様な世代の子どもたちが集い交流し、地域について学び合う空間。



旧小高区西庁舎

かつて小高の二つ目の映画劇場である、国際劇場があった場所です。時代と共に、代官屋敷跡、国際劇場、郵便局、区役所と移り変わってきました。

【旧小高区西庁舎の可能性】

- ・貴船神社の真向かいであり、小高神社の参道に位置する。
- ・区役所、浮舟文化会館、消防署、病院などの公共施設が集積する通りに面する。

【活用の方針】

立地を活かし、地域の人も行政も外の人も集まれるような拠点として整備する。

